

青森県立美術館お出かけ企画 in はっち

三上枝織さんと楽しむ

美少女の美術史 展 オリジナルアニメ

「女生徒」を青森弁で朗読！

会場：八戸ポータルミュージアムはっち2Fシアター2

青森県立美術館で7月12日から9月7日まで開催の「美少女の美術史」展。

「美少女」をテーマとし、美術のみならず、文学、漫画、アニメ、フィギュアなど様々な領域を横断しながら、「少女」という概念に投影された現代日本人の意識を探り、過去から現在に至る日本の文化を振り返る企画です。展覧会では、太宰治の「女生徒」を原作にしたオリジナルアニメも上映しています。

今回は青森県立美術館のお出かけ企画として、本展の見どころをスライドで紹介するとともに、**展覧会会場でしか観ることのできないアニメーション << 女生徒 >> を特別に上映いたします。しかも、通常バージョンとは異なり、青森出身の人気声優三上枝織さんが青森弁で朗読！会場で映像に直接声をあてていただきます！上映後には三上さんのトークショーも開催！**

ぜひご来場ください！

8 / 24
(日)

10:30 ~ 12:00

観覧料：無料

定員：100名

お問い合わせ

美少女展青森実行委員会（青森県立美術館内）

青森市安田字近野185 Tel:017-783-3000

<http://www.aomori-museum.jp/ja/exhibition/60/>

美少女展特設サイト：<http://bishojo.info/>



三上枝織 声優
青森県出身

アニメ 進撃の巨人 クリスタ・レンズ役
アニメ ゆるゆり 赤座あかり役 等



塚原重義 アニメ『女生徒』イメージイラスト
© 美少女の美術史展実行委員会

はっち
783
12
hacchi

青森
県立
美術館

AOMORI MUSEUM OF ART

美少女の 美術史

「少女」について考えるための16の事柄

2014

7.12(土) ~ 9.7(日)

「美少女」は、世界から注目を集める日本の漫画・アニメにおける突出したモチーフです。これは現代に固有の現象ではなく、「少女」という存在は、古くから日本の芸術において重要な役割をはたしてきました。

本展は、「美少女」をテーマとし、美術のみならず、文学、漫画、アニメ、フィギュアなど様々な領域を横断しながら、「少女」という概念に投影された現代日本人の意識を探り、過去から現在に至る日本の文化を振り返ります。

いったい「少女」とは何なのか。約110名の作家の300点を超える作品、資料によって16の切り口を設け、多様な視点から「少女」について考えます。

※会期中、一部作品は展示替えを行います。

開館時間：9:00 - 18:00 (入館は17:30まで)

休館日：8月25日(月)

観覧料：一般1,500円(1,200)円 高校・大学生1,000(800)円

小中生こども美術館デイにより無料

※常設展示もご観覧いただけます。

※()内は20名以上の団体料金。

※心身に障害のある方と付添者1名は無料。



高橋之彦《少女(休憩)》1926(大正15)年 京都市美術館蔵



谷口真人《Untitled》(部分)
2014(平成26)年 個人蔵 撮影：木奥恵三
© Makoto Taniguchi Courtesy of NANZUKA



赤塚不二夫《ひみつのアッコちゃん》
『りぼん』1963年3月号原画 ※発行本化の際に着色
1963(昭和38)年
株式会社フジオ・プロダクション蔵 ©フジオプロ



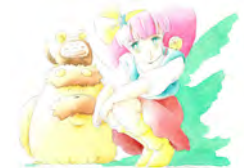
内藤ルネ《ジュニアそらいゆ》第32号表紙絵
1960(昭和35)年
株式会社ルネ蔵 ©R.S.H/RUNE



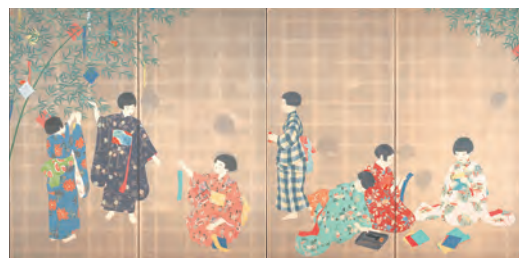
鈴木春信《見立寒山拾得》
1765(天明2)年
千歳市美術館蔵 ※前期展示



手塚治虫《リボンの騎士》
『なかよし』1964年6月号ふるく表紙絵
1964(昭和39)年
©手塚プロダクション



わたなべひろし、けいこ
《魔法のプリンセス ミンキーモモ》
『マイアニメ』1985年7月号表紙
1985(昭和60)年
株式会社プロダクションリード(旧プロダクション)蔵
©PRODUCTION REED 1982



橋本花乃《七夕》1930~31(昭和5~6)年頃 大阪新美術館建設準備室蔵 ※前期展示



Mr. Goin To A Go-gol! 2014(平成26)年
Courtesy Kaikai Kiki Gallery ©2014 Mr./Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.

青森県立美術館